

旬じょうはん

情勢判断学会 東京本部
会員向けニューズレター
発行人 古川 彰久
事務局 〒252-0321 神奈川県
相模原市南区相模台 1-23-9
Tel.&Fax.
042-748-8240
<http://www.jouhan.com>
E-mail: info@iki2life.com

9 月例会ご案内

9 月 14 日 木曜日 18:30 ~ 21:00

テーマ : 日本会議とは

場所 : 港区商工会館

参加費 : 1000 円

担当 : 飯田 豊

2016 年 7 月某新聞が「日本会議」に関する書籍が多数出版していると報じました。日本会議に多数の国会議員が所属し、また安倍内閣においては、過半数を超える大臣が、日本会議に所属していることを知り、**日本会議とは何かを知るために「日本会議の正体」**(青木理著)を読んだ。

「日本会議の正体」は、5 章構成で、「日本会議の現在」「もう一つの学生運動」と生長の家「くすぶる戦前の回帰願望」「草の根運動」の軌跡「安倍政権との共振と実相」である。

安倍首相誕生に際し、海外メディアは、2014 年～2015 年にかけて、次のように報じている。

「日本会議とは“日本の政治を作り変えようとしている極右ロビー団体” (豪 ABC)、“強力な超国家主義団体” (仏ル・モンド)、“安倍内閣を牛耳っている” (米 CNN) にも拘わらず、日本のメディアの注目を殆ど集めていない” (英エコノミスト)」等々の海外の報道から始まった。その後日本メディアが追随した。

先ず日本会議がどのように誕生したか？宗教右派を中心に、1974 年「日本を守る会」が組織化された。一方“元号法制化運動”に取り組んだ団体を発展改組し、財界・政界・学界・宗教界等の代表が中心となり、1981 年「日本を守る国民会議」となった。1997 年両団体が統合して、「**日本会議**」が誕生した。その日本会議の理念や政策を現実政治の場で具現化していくことを目指していく「**日本会議国会議員懇談会**」を結成した。

2015 年 9 月時点では、同懇談会には衆参両議院で 281 人、2017 年 7 月時点での内閣の 20 名の大員中 13 人が同懇談会のメンバーで占められており、又首相官邸の枢要スタッフの大半が同懇談会のメンバーで占められている。

日本会議の事務総長梶島有三は、「日本を守る会」

及び「日本を守る国民会議」の事務局をしており、統合後も、実質日本会議の活動を推進する中心的人物である。彼の出自に遡ると、1960 年代当時左派系学生が全国を席捲している中、九州の国立大学で生長の家系サークルが中心となり、右派系の大学自治会が全国に先駆け誕生した。その後関東の私大でも右派系学生が活躍し、全国組織に繋がっていく。この中心となったのが、生長の家政治連盟 (生政連) に所属していた梶島有三であった。

生政連が台頭していく背景として、当時の左派系学生による、共産革命の阻止及び創価学会の政治参加による国教化の恐怖に対抗して、各宗教団体の政治連盟組織化され、生政連や神社本庁政治連盟が出現し、右派系活動の中心となっていく。

しかし 1983 年生長の家が政治活動と決別し、生政連も解散する。その理由は、生長の家が、自民党の集票マシンとなるが、生長の家が進める政策が全く反映されなくなったり、生長の家出身候補の比例代表制の順位が下がり、国会議員を送り出せなかったことが、大きな要因になっていると言われていたが、生学連 (生長の家学生) 出身の一部の人は政治活動から離れなかった。

神社関係者にとっては、明治以降終戦まで天皇を中心に国家神道を基本思想として方向づけてきた政治体制から考えると、戦後体制への憤懣と戦前体制への憧憬、回顧願望がくすぶり続けた。

このようなことを背景として、日本会議の源流は、新興宗教・生長の家に出自を持つ右派の活動家であったが、それに必要なのは、資金力と動員力である。その役割を担ったのが、神社本庁である。

神社本庁は、全国に八万社の神社を持ち、動員力及び資金力で日本会議の活動を支えていると考えられる。

建国記念の日制定と元号法制化運動の成功体験として、全国神社組織を動員した草の根運動及び 47 都府県に中央からキャラバン隊を派遣し、地方から国へと活動してきた。この基本的な活動の推進方法を確立してきた。教科書の見直し、教育基本法の改正を経て、その本丸は、憲法の改正である。

最終章は、「安倍政権との共振とその実相」を論じている。9 月の例会で報告し、皆さんと話し合いたいと考えています。

7月例会報告

7月13日 木曜日 18:30 ~ 21:00

テーマ : 「カエルの樂園」 百田尚樹著

場所 : 港区商工会館

担当 : 石田 金次郎

「カエルの樂園」は、寓話です。「カエルを信じろ」、「カエルと争うな」、「争うための力を持つな」という「三戒」を守って平和に暮らしているツチガエルの国(ナパーージュ)が、平和はこの三戒のお蔭であると信じているうちに、凶暴なウシガエルたちに滅亡されてしまうという寓話である。

この寓話の大意は、「日本人が時代や環境の変化を捉えきれず、憲法9条や平和主義だけを信じて、相も変わらぬ思考から抜けきれず、自国の防衛や外交に無頓着であれば、いずれこの豊かで平和な国は中国の侵略を受けて滅ぼされてしまうぞ。」である。警告の書としている。

(この物語の登場者とそのプロフィール)

ナパーージュに流れ着いたソクラテスというアマガエルを客観的な存在として登場させて、語らしめている。

ナパーージュはJapanの反対読みで、日本である。このツチガエルの国ナパーージュは豊かな経済、豊かな自然、心優しいカエルの樂園である。

元老院は国会に当たるもので、プロメテウスとカルディアンというカエルを登場させている。プロメテウスは、三戒より現実の命が大切であり、スチームボードという世界最強の相手との協定で平和が守れたのであり、協定は戦争をするためではなく抑止力として必要であると主張している。一方、カルディアンは三戒がある限り平和であり、協定が抑止力というのは詭弁である。問題あれば、誠心誠意話し合えば、争いはないという主張である。

デイブレイクはナパーージュのメディアであり、この国で起きた全てのことを話し、カエルの信頼を得ている存在である。三戒を絶対遵守の立場である。また、ナパーージュの過去の侵略・残虐行為に対し、常に「謝りソング」を歌うことを主張している。元老院は間抜けばかりで、誰を議員に選んだらよいかを教えている存在と自負している。世論形成に絶大な力を持っている。謝りソングとは、三戒が出来たときに生まれた歌で、「我々は罪深きカエルである！罪は我に、みんなで謝ろう！」という歌である。ハンニバル兄弟を「カエル殺し」と非難し、存在を評価しない。

ハンニバル兄弟とは、ハンニバル・ワルグラ・ゴヤスレイの力のある三兄弟である(自衛隊)。

スチームボードとは、巨大な鷲(米国)で、ナパーージュとかって一戦交え支配したことがあり、この世界はスチームボードの監視下にあると自負している。が、年をとってしまい。往年の力に陰りが見え、ナパーージュとの協定の延長については、ナパーージュも一緒に戦うことを条件としている。

ウシガエル(中国)は身体も大きく、凶暴なカエルで

毎日色々なカエルを食べている。

ヌマガエル(韓国)は、ヌマガエルを曾て奴隷にしたことがあり、ツチガエルを劣等と蔑んでいる。

あと、プロメテウス寄りのハンドレッド・デイブレイク寄りのフラワーズ・無関心派のローラなどの登場カエルがいる。以上が登場者のプロフィールである。

(物語のあらすじ・・・事態と意見など)

1 ; ナパーージュの南の崖に、ウシガエルが現れ一匹、二匹と増えてくる事態発生！

プロメテウスは、由々しき事態である、石を並べて落とすなど対抗すべき、スチームボードに南の崖を見張って貰うなど提案する。一方、カルディアンは、石を落とす行為は三戒に反するとし、スチームボードに見張って貰うことには諒承。デイブレイクは、ウシガエルは友好的で優しいカエルである。ウシガエルの節度ある行動で争いは回避されている。謝りソングを歌おうと主張。

2 ; スチームボードとの協定交渉！

スチームボードより、「協定はナパーージュも一緒に戦うこと、スチームボードの敵にもナパーージュも協力することの条件」が出され、元老会議などで議論。カルディアンは三戒の遵守を主張。デイブレイクは、協定は戦いをするためであり、三戒違反である。フラワーズという団体は、「戦いは嫌だ！協定を潰そう！」と行動するも、採決では、協定を結ぶことに決す。しかし、これに対してデイブレイクは、協定反対の意見を多くとして元老は失格・罷免だとし、新元老で採決し、協定破棄を決める。スチームボードは、これを受け即時にナパーージュを去ってしまう。

3 ; 南の崖にウシガエルが大挙して上陸してくる！

プロメテウスは、三戒破棄を提案。一方、カルディアンはウシガエルに退去を促すも居座る。相手に戦意が無いのだと説明とし、三戒は最高の法規だと固執。デイブレイクは、たまたま珍しくて上陸しただけ、争いは愚かであるとする。この間、南の崖で衝突発生し、ハンニバル兄弟のワルグラがウシガエルを突き落とす(?)。元老会議で、三戒違反でワルグラは死刑となる。

4 ; ウシガエルが南の崖一帯に住む権利を要求！

元老会議で、三戒の破棄を決定するが、デイブレイクは、カエルの集会で「悪魔が元老会議を乗っ取った」とし、進歩的カエルの集まりを催す。「語り屋」は過去の非道を語り、領土問題は冷静に！謝り続ける！無抵抗を貫く！と主張し、「物知り屋」は世界で唯一素晴らしい三戒は棄てるべきでない、「人気者マイク」は三戒守って、国が減んでもよい。「フラワーズ」はウシガエルと一緒に歌を歌い、友達になる、争いは最低だ等、それぞれの意見が表明された。

5 ; ウシガエルが南の崖から南の草むら一帯を占拠！

プロメテウスは、国を奪いに来た、立ち上がろう！とし、ハンニバルとゴヤスレイを待機させる。一方、カルディアンは無闇に事を荒立てず、冷静に！と対応し、デイブレイクは見学に来たのかもしれない、いつ

の日か帰る。平和を愛するはずだ。南の草むらは大切な地というわけではない。友情の草むらだ、との論を張る。6；ウシガエルさらに奥の池に浸入！

ハンニバルとゴヤスレイがウシガエルの前に立ちただけ、ウシガエルを追い払う事態があり、ダイブレイクは、兄弟を三戒違反、ハンニバルとゴヤスレイの目を潰して腕を切り落させる。三戒は、平和を望み争いを否定するもので、いずれウシガエルも理解するとの姿勢をとる。元老たちがウシガエルに出ていってくれるよう頼むもウシガエルは聞かない。

7；ウシガエル大挙して中央高原に浸入し、完全占拠！

カルディアンは、ナパージュを平和な形でウシガエルに明け渡そう、長くは続かないといい、ダイブレイクはウシガエルがナパージュを統治しやすいよう協力するとし、ウシガエルの為に、情報提供や密告奨励をする。8；ナパージュの国が減じる！

ヌマガエルが三戒破棄のツチガエル達を検挙。ダイブレイクは奴隷として生きながらえる。カルディアンは元老から地区の自治会長に左遷された。

あらすじは、概略以上のような内容である。

(所見並びに雑感)

「カエルの楽園」の寓話の対象は、「中国の脅威」であり、百田の中国人に対する鑑識眼・鋭い洞察力で一つの中国に対する見方を提供している。日本列島の近隣に中国・韓国があり、「今の政治とマスコミの報道を続けると、こんな結果になりかねませんよ」という一種の警告のつもりで書いたと述べている。

百田尚樹と石平の対談「カエルの楽園が地獄と化す日」(飛鳥新社出版)で石平曰く、中国共産党は、インドシナ戦争でフランスがベトナムから撤退するとすぐさま西沙諸島の東側を奪い、ベトナム戦争の末期米軍が南ベトナムから全面撤退すると翌1974年には戦争をしかけて西沙諸島全域を南ベトナムから奪い、軍事占領し、1988年には南沙諸島(スプラトリー諸島)に侵攻してベトナム軍を撃破し、占領。フィリピンでは1992年に米軍が撤退すると、1994年にフィリピンが実効支配していた南沙諸島のミスチーフ礁を占領し、2012年にはフィリピンの排他的経済水域内のスカボロー礁(中沙諸島)を軍事占領して人工島を埋め立て、軍事拠点を建設している。これが中国共産党の行動様式であると。

南シナ海の領有権に関してフィリピンが中国を相手取って起こしたオランダハーグの国際司法裁判所の判決も、中国は一片の紙切れと言って相手にせずと国際常識も一顧だにせず、との姿勢を表明している。

現在中国は、日本が実効支配している尖閣諸島は中国の革新的利益であるといって尖閣をとると公言している。2010年中国漁船と巡視船の衝突以来尖閣諸島の接続水域、領海への中国船の侵犯が急増しており、今までは魚政や海警の船であったが、2016年6月軍艦が侵犯するようになって来ている。

寓話の草むらや奥の池が何を指すのか分からないが、中国の沖縄に対する姿勢も気になる。沖縄は、1609年に

琉球を薩摩藩が植民地化し、1879年廃藩置県の時に琉球処分にて沖縄県設置して、清国との関係を清算した。が、2016年第二回琉球・沖縄先端問題国際学術会議が北京で開かれている。内容は沖縄の自己決定権や米軍基地問題、独立などである。主催者は中国戦略・管理研究会、北京大学歴史学部で本部は釣魚台国賓館にある。沖縄は米軍基地の問題で揺れている中、中国が沖縄に関する国際学術会議を勝手にやることに對して、日本は抗議してしかるべきと考えるが。

沖縄は、「沖縄の不都合な真実」大久保潤・篠原章著によれば、全国一の格差社会であり、一人当たりの県民所得も全国最低であり、様々な指標でワーストな数値で脆弱な社会経済構造とされている。そして、その社会は琉球大学OBのエリートを中心にした閉鎖的な支配階級がメディアなど県内権力と一体化しており、超保守社会を形成している。そして反基地運動は経済的に恵まれた県職員や外部からの力も加わって、極めて舵取りの難しい問題を秘めていると述べている。米軍追い出しの動きは中国の望むところであろう。

韓国については、崔碩榮著「韓国反日教育」、百田尚樹著「韓国に謝ろう」、崔基鎬著「日韓併合の真実」、イザベラ・バード「朝鮮紀行」等読んでみた。

中国と韓国や北朝鮮との歴史的関係は、1392年に李成桂(太祖)が李氏朝鮮を建国し、中国明王朝に臣従する、つまり属国になることを喜んで選択し自ら小中華を名乗り、それ以外は蛮夷としたこと。その蛮夷なる日本に1910年併合されるまで518年のあいだ中国に臣従し、中国的制度を取り入れてきた。

李氏朝鮮は僅かな王族と両班の支配層が生殺与奪の権力を握り、多くの人たちは支配層の搾取で無気力な社会となって、文盲率も1905年で80~90%と極めて低く、近代文明から取り残された国であった。日本は併合後、この国に対して、近代化の諸政策を行った。例えば学制の面では、小学校や専門学校・中学校・実業高校や大学など36年間で5000校近く作り、莫大な資金と人的投資としてきた。が、この国は、これを愚民化政策としてしか評価していない。身分制度も王族以外は全て平等にする身分社会などの変革を進めた。が、小中華としては蛮夷日本の進めた諸改革には抵抗があり評価していない。今でも両国の歴史認識は、事実認識から乖離している状況でないかと思う。

百田も石平も、マスコミの重大性を重ねて言及している。マスコミの論調を見て策を打ってくるのは中国の常套手段である。中国は日本の世論を動かすようあらゆる工作をしてくる。特に中国の脅威を語ろうとしない新聞社やNHKの言論空間を危惧している。

北京に記者を置くこと条件として①中国を敵視してはならない、②米国に追随して「二つの中国」を作ることに加担しない③両国関係が政情に発展するのを妨げない、の三原則があると記している。

また、NHKにはCCTV支局、朝日には人民日報の支局が入っていると、記している。以上

例会予定

2017年

10月12日 木曜日 18:30 ~ 21:00

テーマ : 未定
場所 : 港区商工会館
担当 : 未定

11月9日 木曜日 18:30 ~ 21:00

テーマ : 未定
場所 : 港区商工会館
担当 : 未定

開催場所 : 港区商工会館

※ 会誌発送は、E-mail です。
※ 年会費はありません。
※ 「じょうはん」 発送のお申込は、
E-mail : info@iki2life.com
まで、Mail でご連絡下さい。
※ 興味のある方にも積極的に転送してあげて下さい。
※ ホームページもご確認下さい。
<http://www.jouhan.com>

編集後記

「日本会議」という組織について、皆さんはご存知でしょうか？
我が国ではあまり報道もされずに関心も持たれていないようですが、現実の政治には大きな影響力を有しているとのことであります。
今回はこの「日本会議」について、飯田豊氏からお話をいただきます。
皆様の積極的な参画を期待申し上げます。(古川)

港区商工会館へのご案内地図



東京都港区海岸 1-4-28 TEL03-3433-0862
ゆりかもめ竹芝駅より徒歩6分、
JR浜松町駅北口から徒歩およそ7分、
都営地下鉄浅草線・大江戸線大門駅B2出口からおおよそ徒歩10分